教育実習事前指導（社会系共通・帝京大学）

学習指導案

日　　時 平成29年３月31日（金）

　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　 対象　　　　高等学校第　　学年

 授業者　　　　学部　　　　　学科

　　　　　　　　　　　　　　学籍番号　氏名　　　　　　　印

１　単元（題材）名

　　　　（科目名、教科書、副教材等）

２　単元の目標

　　　・学習指導要領に基づき、生徒に身に付けさせたい力を具体的に記述する。

　　　・「～する」「～することができる」など、児童・生徒の能力面の育成ができたかとう立場で記述する。

３　単元の評価規準

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ア　関心・意欲・態度 | イ　思考・判断・表現 | ウ　技能 | エ　知識・理解 |
| 学習活動に即した具体的な評価規準 | すすんで○○しようとしている。○○を生かそうとしている。 | ○について考えたことを表現している。 | 〇〇の技能を身に付けている。 | 〇〇について〇〇を理解している。 |

４　指導観

(1) 単元（題材）観

 ・学習指導要領における位置付けについて、記述する。
・重点を置く指導について、記述する。

(2) 児童・生徒観

 ・本単元（題材）の学習内容に関する基礎的な既習事項の定着状況について、記述する。

 ・学習上の課題等について、記述する。

(3) 教材観

・単に使用する教材の工夫を記述するのではなく、単元（題材）観や生徒観との関連に触れながら、使用する教材についての考え方を記述する。

　単元（題材）の指導計画と評価計画（○時間扱い）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ねらい・学習内容 | 評価規準・評価方法 |
| 第１時 |  |  |
| 第２時 |  |  |
| 第３時 |  |  |

７　本　時（全○時間中の第◆時間目）

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開　学習指導案　（案）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教科（科目） | 社会科 | 単元名 |  |
| 本時主題 | リスク社会と防災を考える |
| 本時の目標 | １ リスク社会と防災というテーマを通して、政府の役割について関心をもつ。２ 防災対策に対する考察と意見表明を通して、社会を形成するために合意形成が必要であることを理解する。３ リスク社会と防災について、政府のあるべき役割を小さな政府・大きな政府という考え方から考察し、生徒間で意見を発表することができる。４ リスク社会と防災について、実際にどのような問題が生じているのかを追究する意欲をもつ。  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 指導の内容・ねらい | 学習活動 | 指導上の留意点・評価方法 |
| ○前時の復習（５分） | ○前時に学習した内容を復習した上で、経済的な政府の役割について再確認をする。　（市場の失敗が存在するため、公共財の供給は政府の役割とされている。） | 簡単に触れる程度にする |
| * 政府を取り巻く状況（10分）

○政府はどこまで市民の命を守るべきなのか？（１）（10分）（ロールプレイの準備）* 作戦会議（20分）
 | * 政府のあるべき姿については、具体的に｢小さな政府｣・｢大きな政府｣とよばれる考え方がある。時代ごとによって、政府の役割は変遷してきているが、以下の事業は政府が行うべきものであろうか。

|  |
| --- |
| （例示するもの）郵便　電話　林野　印刷　鉄道　専売（塩・たばこ）　刑務所　警察　軍事　外交　銀行　電気　ガス　水道 |

　→これらは一時的に国（地方行政）が関与していたものであり、国が運営した方が適切か民間で運営した方が適切かは、時代によって変化している。　何が政府の役割として必要だろうか？上の事例から、自分が大切だと思うものを抜き出し、共通点を見つけてみよう。（予想される生徒の回答）　→民間で出来ない部分を担当する？　これらを知った上で、政府の役割は市民と政府との合意によって変遷していることを理解する（例えば最近では、郵政民営化について）。そこで、みんなも最近の話題から政府の役割について合意形成を目指した議論をしてもらいたいと思います。

|  |
| --- |
| 【発問】国はどこまで市民の命をまもるべきであろうか？ |

（タスク）　以下の通り、生徒は行政と市民とに別れ、政策の合意形成を目指す。政策の内容は以下の通り。（設定場所：静岡県）（行政が行いたい政策）・静岡県民の生命を守ることを第一に，海岸線に8 mの防潮堤を建設することを目標とする。・静岡県民のための防潮堤工事の説明会を主催，意見聴取，最終的には建設の方向に意見集約させる。　ロールプレイをして、各役割を理解する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 行政側行政側の公務員として防潮堤の政策提案を行い、市民との合意形成を目指す。 | 市民A・年齢38才　夫婦２名・子ども２名・祖父１名と同居。海から近いところに住居を新築。 | 市民B・年齢33歳　独身　男性/女性・一人暮らし。結婚の予定はなし。 |
| 市民C・年齢53歳　サラリーマン/主婦　海から3kmではあるが、高台のマイホームに住んでいる。 | 市民D・年齢75歳　老夫婦・静岡でサラリーマンを38年務め、退職。現在、年金生活中。 | 市民E・年齢16歳　高校生・陸前高田市に住んでおり、中学生時に東日本大震災を経験。 |

　行政側と市民側に別れて、タスク説明及び作戦会議を行う。　行政側…防災計画の必要性及びプレゼン資料作り　市民側…状況設定の確認及班ごとに作戦会議を行い、一週間後のコンセンサス会議で合意形成にむけての準備を行う。 | 過去の事例（電電公社や専売公社）や最近の事例（郵政民営化）、また第二次世界大戦中の日本発送電についても触れながら、国の役割が変遷していることを伝える。* 行政側をSが担当し、市民側を加納が担当し指導する。
* Sからは、地学的な説明をしてもらう。
* Sには適宜、理科的な補足説明をしてもらう。
 |
| ○まとめ（５分） | * 次回の授業内容の確認（コンセンサス会議にむけて）
* 理科的な補足説明と合意形成の必要性について注意する。
 |  |

(3) 板書計画（手書きでも可）